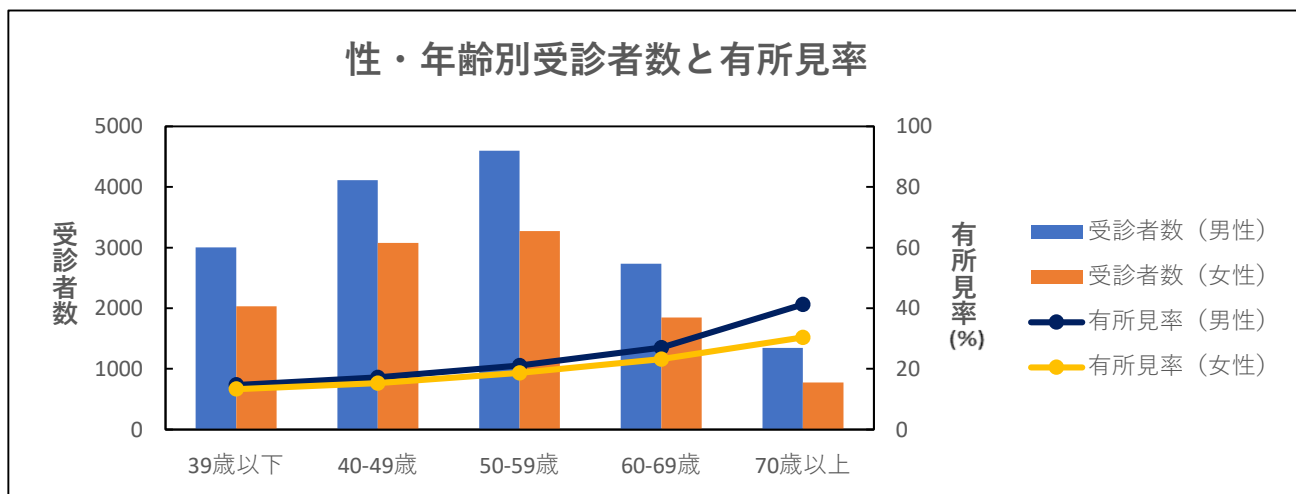


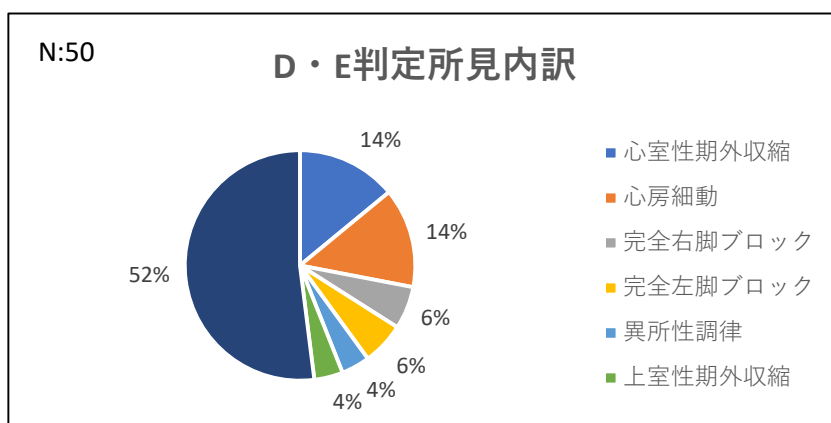
## 安静時心電図検査

性別	年齢	受診者数	正常者数 A・B判定(%)		経過観察者数 C判定(%)		要精検者数 D・E判定(%)		治療中 F判定(%)	
			数	(%)	数	(%)	数	(%)	数	(%)
男性	39歳以下	3,004	2,562	(85.3)	433	(14.4)	5	(0.2)	4	(0.1)
	40-49歳	4,114	3,408	(82.8)	678	(16.5)	19	(0.5)	9	(0.2)
	50-59歳	4,600	3,632	(79.0)	900	(19.6)	28	(0.6)	40	(0.9)
	60-69歳	2,734	1,996	(73.0)	652	(23.8)	28	(1.0)	58	(2.1)
	70歳以上	1,346	790	(58.7)	460	(34.2)	19	(1.4)	77	(5.7)
女性	39歳以下	2,029	1,758	(86.6)	264	(13.0)	6	(0.3)	1	(0.05)
	40-49歳	3,079	2,610	(84.8)	464	(15.1)	4	(0.1)	1	(0.03)
	50-59歳	3,275	2,664	(81.3)	596	(18.2)	9	(0.3)	6	(0.2)
	60-69歳	1,847	1,418	(76.8)	412	(22.3)	11	(0.6)	6	(0.3)
	70歳以上	776	540	(69.6)	209	(26.9)	11	(1.4)	16	(2.1)
計		26,804	21,378	(79.8)	5,068	(18.9)	140	(0.5)	218	(0.8)

安静時心電図検査の受診者数は26,804人、このうち要精検者数は140人(0.5%)、治療中は218人(0.8%)でした。



受診者数は26,804人、このうち有所見者数は5,426人(20.2%)。男女とも加齢とともに有所見率が増加しています。



D・E判定所見		(件)
D	心室性期外収縮	7
E	心房細動	7
判定所見	完全右脚ブロック	3
	完全左脚ブロック	3
	異所性調律	2
	上室性期外収縮	2
	その他	26

心房細動と判定判定された2人は、アブレーション施行となりました。

## 安静時心電図検査所見

	男性	女性	総計
要精検者数	99 (0.6%)	41 (0.4%)	140
受診者数	15,798	11,006	26,804
<b>QT延長</b>	12	15	27
Q波	1	2	3
R波増高不良	1	2	3
ST・T異常	15	7	22
WPW症候群	2	1	3
ブルガダ型	9	1	10
異常Q波	3	3	6
陰性T波	9	3	12
右軸偏位	1	4	5
完全右脚ブロック	10	5	15
完全左脚ブロック	8	1	9
巨大陰性T波	1	2	3
軽度のQT延長	4	1	5
高電位	4	0	4
左脚前枝ブロック	2	0	2
左軸偏位	9	1	10
左室肥大	9	3	12
上室性期外収縮	2	0	2
<b>上室性期外収縮 (shortrun)</b>	0	3	3
上室性期外収縮 (二段脈)	1	0	1
<b>上室性期外収縮 (連発)</b>	2	2	4
<b>心筋梗塞</b>	2	0	2
心室性期外収縮	5	3	8
心室性期外収縮 (二段脈)	3	1	4
<b>心室性期外収縮 (shortrun)</b>	1	1	2
<b>心室性期外収縮 (多形性)</b>	4	0	4
<b>心室性期外収縮 (連発)</b>	3	0	3
<b>心室内伝導障害</b>	9	0	9
心房細動	15	2	17
<b>心房粗動</b>	1	0	1
人工ペースメーカー	1	0	1
増高T波	2	0	2
第Ⅰ度房室ブロック	10	0	10
第Ⅱ度房室ブロック(Wenckebach)	1	0	1
陳旧性心筋梗塞	8	2	10
低電位	3	1	4
<b>洞機能不全症候群</b>	1	0	1
洞性徐脈	2	0	2
洞性徐脈 (高度)	1	0	1
洞性頻脈 (軽度)	6	2	8
<b>洞性頻脈 (高度)</b>	0	2	2
洞性不整脈	1	0	1
<b>洞房ブロック</b>	3	0	3
<b>二束ブロック</b>	2	0	2
反時計回転	8	2	10
頻脈	4	0	4
不完全右脚ブロック	5	0	5
平低T波	6	3	9
<b>房室解離</b>	0	1	1
<b>房室接合部性補充調律</b>	0	1	1

赤字は紹介率50%以上の所見